鈴鹿8耐を共に戦ったメンバーが再び鈴鹿に集結。前列中央がオーファ代表の細川さん。ゼッケン55番のグロムにまたがるのが斉藤さん。このチーム写真にはオーファ(Ofa)の社名の由来であるOne For ALLのスピリットが息づいている

鈴鹿8耐参戦メンバーで楽しんだミニバイク4耐

昨年まで自社チームのチタニウムパワーレーシング with フーターズとして鈴鹿8耐に参戦していたオーファ そのメンバーたちが今年の鈴鹿ミニモト4耐に参戦した メンバーの中心は8耐のチームスタッフ ミニモトを楽しんだ彼らの奮闘ぶりを紹介しよう

写真と文／山下 博央

「レースに出てみたい」

鈴鹿8耐にチタニウムパワーレーシングウィズ フーターズとして参戦して来たメンバーが鈴鹿のミニモト4耐に挑戦した。

チームの母体となるオーファはチタンをはじめとする鋼材などを販売する会社で、バイク用カスタムパーツとして人気のチタンなどをアフターパーツメーカーに卸している。今年の鈴鹿8耐にはチームとしては参加しなかったが、ヤマハファクトリーレーシングチームに同社が製作したマフラーを供給したことでも知られている。

オーファは2014年から自社チームで鈴鹿8耐に参戦してきたが、チームスタッフは同社代表の細川寿二さんを筆頭に、オーファの社員や細川さんの友人らで構成されていた。そして、その中の一人が、細川さんとは旧知の間柄である俳優の斉藤祥太さんだった。

GPZ900Rを所有するバイク好きであり、チームスタッフとして毎年鈴鹿8耐に参加していた斉藤さんは、鈴鹿8耐を手伝うようになってから「レースに出てみたい」と思うようになったそうだ。その夢が実現したのが、今回の鈴鹿ミニモト4耐だ。

「祥太とは以前から一緒にレースをやりたいね、とは話をしていましたし、鈴鹿8耐参戦はチームとしては昨年でいったん終了したのですが、鈴鹿8耐で協力してくれた仲間ともう一度、一緒に何かしたいという思いもありました。でも、自分たちが出られるレースなんてあるのかな、と話をしていたときにミニモトを知って出場することにしたのです。私や祥太以外は以前レースに出たことがある人たちですが、今は仕事が忙しかったり、家族がいたりでレースには出ていません。でも、今回は奥さんを説得したりして参加してくれました」と細川さん。

ミニモトには2チームで参加。上位をねらうガチ本気のAチームは2017、2018年の鈴鹿8耐に同チームから出場した徳留和樹さんが加わり、ミニバイクレース経験者の山本秀次さんと平井善隆さんがチームを組む。

一方、Bチームは初レースの細川さんや斉藤さんに加え、過去にミニモト出場経験を持つ矢板橋貴行さんと中惠圭介さんの4人。

チームクルーは8耐参戦時と同様にオーファのスタッフがサポートし、さらにRSタイチの藤本淳一さんがアドバイザーとして参加。実は藤本さんはライダーとして誘われたそうだが、日程が合わずに断念したそうでサポート役を買って出た。また、チームペビーフェイスの津田一磨選手も応援に駆けつけた。

初レースとなる細川さんと斉藤さんはミニモト合同走行会やミニバイクコースでも練習を重ねて、今回のレースに臨んだ。練習を通じて急成長を見せたのが斉藤さんだったそうで、周囲は斉藤さんが転倒してケガでもしないかと心配するほどだったという。

一方、元ラガーマンの細川さんは身長185㎝、体重100kgとかなりの巨漢。ミニモトに向けてダイエットに挑戦したそうだが、鈴鹿ではS字から先の上り区間で全く上らなかったそうだ。また、持病の腰痛もあるため、チームBは矢板橋さん、斉藤さん、中惠さんの3人で走行し、細川さんはゴール直前に交代してチェッカーを受ける計画だった。

そして迎えた鈴鹿ミニモト4耐レース当日。台風15号の影響も心配されたが、朝から快晴。前夜に降った雨により蒸し暑い1日となる。

予選ではチームAの山本さんが3分19秒899を記録して95台中33番グリッドを獲得。チームBの矢板橋さんは予選の早い段階で転倒を喫したが、コースイン2周目に記録した3分31秒361で65番グリッドを得た。

決勝は午後1時にル・マン式スタートで始まり、チームAは山本さん、そしてチームBは矢板橋さんがそれぞれスタートライダーを務める。山本さんはスタートを決めて20番手前後を争う集団内でレースを戦う。また、矢板橋さんも着実に周回を重ねていく。今回のチームの目標は大きなトラブルなく完走すること。各ライダー、きっちりと自分の走行時間をこなしていく。

約1時間を過ぎたあたりで、Aチームは徳留さんに、そしてBチームは斉藤さんにライダー交代。Aチームは徳留さんの走りで大幅に順位を上げ、13位に浮上。一方、斉藤さんもライダー交代直前には今回目標としていた3分30秒切りを達成。このタイムはBチームのベストタイムとなった。

「ちょうど徳留選手に抜かれたときに、引っ張られる形で目標をクリアできました」と笑顔で語った斉藤さん。ライダー交代後でもまだまだ走れそうなくらい元気で、心からレースを楽しんでいる様子だった。

レースは3時間過ぎに転倒した車両がコース上に残り、赤旗中断。約1時間を残してレース成立となり、残念ながら細川さんはチェッカーを受けることはできなかった。レース結果はAチームが12位、Bチームは78位と、共に完走を果たした。

これからもレースを楽しみたい

「みんな仕事も頑張らないといけない歳だし、レースに出ようと思ってもなかなか難しい部分もあったけど、オンオフを切り替えながら遊び仕事も一生懸命になれるのは楽しいですよね。これがいい励みとなって仕事も頑張ろう、という気持ちになってくれればさらにうれしいです。みんなとずっとこうやって楽しんでいければいいと思いますし、できる限りこれからもみんなでレースを楽しんでいきたいですね」と細川さん。

「バイク業界に関わるものとして、少しでも貢献したい」と鈴鹿8耐に参戦していた細川さん。これからは「自分たちがライダーとしてレースを楽しみ、それを仕事の励みにしていきたい」と語る。鈴鹿ミニモト4耐で、彼らはめいっぱいレースを楽しんでいた。

マシンは両チーム共HRCグロム。マフラーはAZITO製で、ステップはペビーフェイス製を装着。2台そろって美しくカラーリングされている

走行を終えライダー交代。走り終えたばかりの斉藤さん(左奥)の笑顔が印象的だった。斉藤さんはBチームのベストラップを記録

ピットの雰囲気は8耐と変わらない。レースに向けてスタッフとやり取りする斉藤さんの表情も真剣そのものだ

A team（ガチ本気チーム）

Aチームは上位を目指し、ミニバイクレース経験者の山本秀次さんと平井善隆さん、そして徳留和樹さんの3人。平井さんはペインターで細川さんや斉藤さんのヘルメット塗装も担当

●山本 秀次

●平井 善隆

●徳留 和樹

B team（エンジョイチーム）

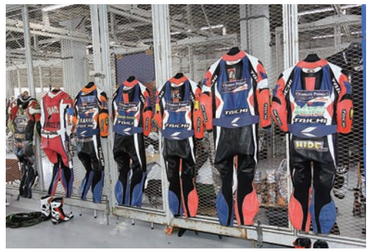
Bチームはレース初心者の細川寿二さんと斉藤祥太さんに、レース経験者の矢板橋貴行さんと中惠圭介さん。矢板橋さんは金属パフ研磨の会社を経営し、チタンマフラーの磨きも行なう

●矢板橋 貴行

●齋藤 祥太

●中惠 圭介

●細川 寿二



ピットにずらり並ぶレーシングスーツ。右から2番目の一回り大きなレーシングスーツが、ラガーマンである細川さんの体格のよさを物語る